



2024年11月13日

各位

会社名ポート株式会社
 代表者名代表取締役社長 CEO 春日博文
 (コード番号: 7047 東証グロース・福証Q-Board)
 常務執行役員兼
 問い合わせ先 財務IR部長 辻本拓
 TEL. 03-5937-6466

2025年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2024年5月13日に公表しました2025年3月期(2024年4月1日~2025年3月31日)の通期業績予想を修正しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2025年3月期通期業績予想数値(2024年4月1日~2025年3月31日)

	売上収益	EBITDA ※1	将来収益込み EBITDA※2	営業利益	税引前 利益	当期利益	親会社の 所有者に 帰属する 当期利益	基本的 1株当り 当期利益
前回発表予想(A)	百万円 21,100	百万円 3,500	百万円 5,000	百万円 2,900	百万円 2,830	百万円 1,850	百万円 1,850	円 銭 141.52
今回修正予想(B)	百万円 21,100	百万円 3,850	百万円 5,550	百万円 3,150	百万円 3,080	百万円 1,965	百万円 1,965	円 銭 148.71
増減額(B-A)	—	350	550	250	250	115	115	
増減率(%)	—	10.0	11.0	8.6	8.8	6.2	6.2	
(参考) 前期実績 (2024年3月期) ※3	15,580	2,650	3,697	2,217	2,146	1,530	1,456	118.23

※1 EBITDA=営業利益+減価償却費+固定資産除却損及び評価損益+株式報酬費用

※2 将来収益込み EBITDA=EBITDA+将来収益

※3 2025年3月期において、株式会社ドアーズに係る取引を非継続事業に分類しております。これにより、売上収益、EBITDA、将来収益込み EBITDA、営業利益、税引前利益は非継続事業を除いた継続事業の金額を表示し、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益は、継続事業及び非継続事業の合算を表示しております。

2. 業績予想修正の理由

当社は、2026年3月期での売上収益250億円、EBITDA40億円、将来収益込み EBITDA48億円を目標とした中期経営計画の達成に向け取り組んでおりますが、その初年度となる2024年3月期につきましては、人材領域、エネルギー領域ともに好調に推移し、将来収益の計画以上の積み増しと、積極的な成長投資を行いながら3度の上方修正を行い着地しております。

初年度に続き今期2025年3月期につきましても、人材領域、エネルギー領域ともに好調に推移しております。

具体的には、人材領域については、企業における人材採用競争の激化等、市場環境が良好な状況において、就職活動の早期化の影響もありながら、みんな就株式会社の連結や、新卒層の約75%が会員となる強固な会員基盤を元に、キャリアアドバイザーの増員や地方拠点の拡大等によりアライアンス、人材

紹介とも順調に拡大し、特に人材紹介の成約件数の増加、成約単価の改善傾向も持続し、大幅な売上成長により人材領域の伸長を牽引しています。

エネルギー領域においても、電力・ガス事業者の新規顧客獲得需要の増加や成約単価の回復が見られる状況下において、積極的なマーケティング投資と M&A のシナジー効果による市場でのプレゼンス向上も図られ、成約件数・成約単価ともに拡大し、将来収益の積み上げを行いながらも、ストック収益の寄与もあり大幅な増収増益となっております。

両事業ともに最需要期となる第4四半期においても順調な見通しであることや、人材紹介成約単価、エネルギー領域の成約単価ともに拡大していること、ストック収益の計画以上の寄与もあり、各利益が計画を上回る見込みであるため上方修正いたしました。

なお、今回の上方修正により EBITDA38.5 億円となり、足元の株価動向に対して施策実行した株主優待費用約 1.5 億円を加味すると中期経営計画目標の EBITDA40 億円を実質的に前倒し達成できる見込みとなります。優待費用を含めても今期での EBITDA40 億円達成を目指して参ります。

(第3四半期以降の見通し)

人材領域、エネルギー領域の第3四半期以降における見通しは以下の通りになります。

人材領域においては、引き続き市場環境が良好な状況において、今年6月に配属した新卒約30名を含めてキャリアアドバイザーは100名規模となり、6月配属の新卒社員も第3四半期以降に業績貢献が見込まれ、就職活動の早期化により大学3年生の1～3月期(第4四半期)での人材紹介件数拡大や、みんな就を含めたアライアンス売上の増加により、特に最需要期である第4四半期での高い成長を見込んでおります。

エネルギー領域においても、引き続き電力・ガス事業者の新規顧客獲得需要の増加による良好な市場環境の中で、積極的なマーケティング投資による総成約件数の拡大と市場内プレゼンス向上による成約単価改善効果も継続し、需要期ではない第3四半期においても前年同期比、前四半期比での成長継続が見込まれ、最需要期である第4四半期においても順調な業績拡大を見込んでおります。また、計画以上に積み上げている将来収益から創出される安定的なストック収益の利益への寄与も更に高まることで、成約単価の改善効果も含めて特に事業利益ベースでの成長が見込める見通しとなります。

今期(2025年3月期)で中計 EBITDA、将来収益込 EBITDA 目標水準となり、来期(2026年3月期)以降も継続的な高い成長を見込んでいるため、新たな成長戦略および来期を初年度とした中期経営計画を策定していく予定となります。

※上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上